



循環型社会を実現するロジスティクスの構築

CGL JOURNAL II

個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる

Conference on Green Logistics in Japan — ロジスティクス環境会議

Contents

- Feature 1 ▶ ロジスティクス環境会議 1
成果物紹介と活用のすすめ
- Feature 2 ▶ 第2期ロジスティクス環境会議 4
第2回本会議報告
- Feature 3 ▶ グリーン物流研究会 第5回研究会 10
開催報告 (株)ブリヂストン 東京工場見学会)
- Feature 4 ▶ ロジスティクス環境シンポジウム 11
開催報告

VOLUME

1

2007.4 Spring



Feature 1

ロジスティクス環境会議 成果物紹介と活用のすすめ

第2期ロジスティクス環境会議の2006年度の活動により、新たに2つの成果物が生まれました。ここでは、第1期を含めた現在までの成果物の内容について、環境会議の活動の根幹となったグランドデザインにおける位置づけとともにご紹介いたします。つきましては、環境会議メンバーの皆様のみならず、皆様の関係会社の方等多くの方々にご活用いただき、循環型社会を実現するロジスティクス構築の一助としていただければ幸いです。

(なお、各成果物につきましては、原則として、ロジスティクス環境会議ホームページ(<http://www.logistics.or.jp/green/>)の「環境負荷低減活動支援ツール」に掲載しております。)

環境会議成果物の グランドデザインにおける 位置づけ

第2期ロジスティクス環境会議の2006年度の活動において、①改正省エネ法対応ヒント集 (Ver.1)と②2006年度 グリーン物流研究会 活動報告書という2つの成果物が作成されました。

第1期を含めた現在までの成果物をグランドデザインで整理すると、源流管理をすすめるためのツール(③、④)、省資源ロジスティクス構築のためのツールと課題提起(⑤、⑥)、リバースロジスティクス構築に向けた提言等(⑦)、各種活動の定量的把握と評価のためのツール(①、⑧)、各社共通して使用できるツール(②、⑨、⑩)となっております。(図1 グランドデザインと成果物の位置づけ参照)

各成果物の活用方法と 内容について

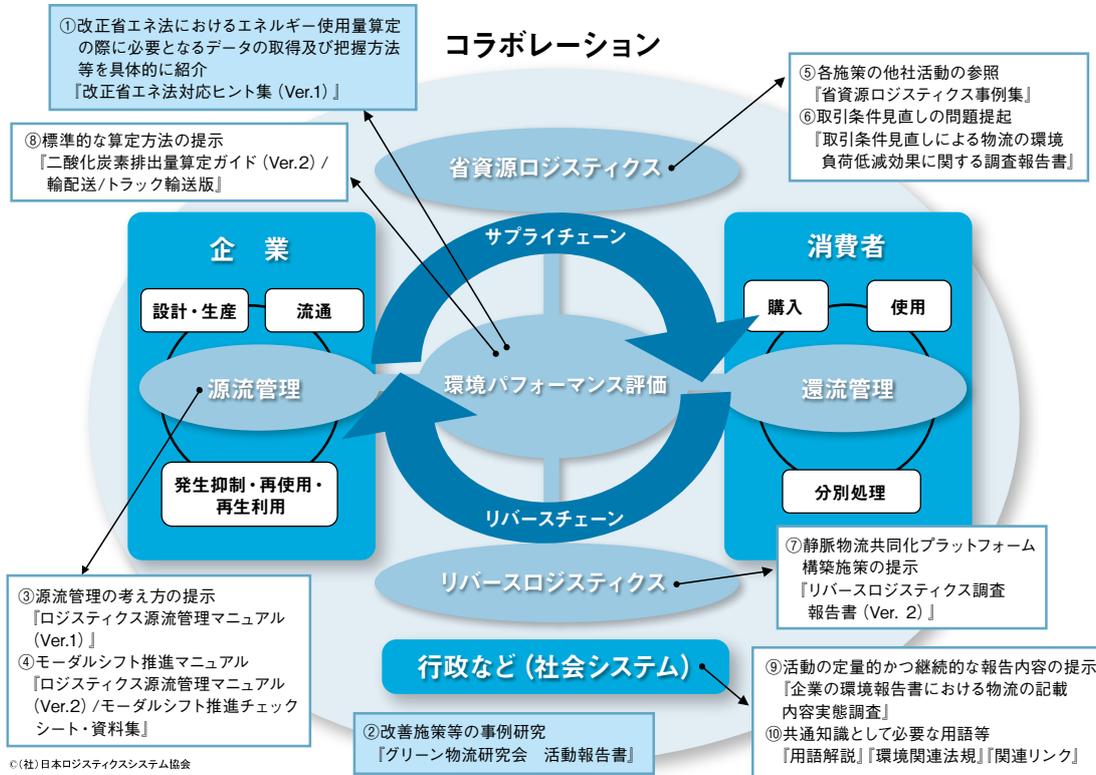
第2期(2006年度)作成

**改正省エネ法に係る対応のヒントを
知りたい方は➡**

1 「改正省エネ法対応ヒント集(Ver.1)」

2006年4月1日に施行された改正省エネ法の運輸分野に係る部分についての対応のヒントとなる情報をまとめている。具体的には、(i)運輸分野に係る措置の概要、(ii)特定荷主に義務付けられているエネルギー使用量の算定に関する概要、(iii)輸送に係るエネルギー使用量削減のための留意ポイントを紹介している。特に、(iii)については、算定に必要となるデータ取得及び把握方法等に関して具体的事例で紹介している。(詳細はP7.8参照)

図1 循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザインと各成果物の位置づけ



実践的な改善施策事例を知りたい方は➡

2 『2006年度 グリーン物流研究会 活動報告書』

環境負荷を軽減する活動を推進するため、改善施策の事例等の情報収集や現場視察を通じて、実践的な改善施策の研究を行っている「グリーン物流研究会」の2006年度の活動報告。

(報告書は環境会議メンバーのみ配布し、ホームページでの公開は行っておりませんが、下記ブログにて各会合の概要等の情報を掲載しております。)

<http://plaza.rakuten.co.jp/greenlogistics/>

第1期 (2004、2005年度) 作成

個人、自部門及び自社が環境負荷の発生源(源流)であるという認識を持ち、自社内での環境負荷低減活動をすすめたい方は➡

3 『ロジスティクス源流管理マニュアル (Ver.1)』

荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企业企業が自ら環境負荷の発生源としての認識を持ち、物流諸活動における環境負荷を最小限に留めるための管理ポイントをマニュアルとしてまとめている。

モーダルシフトに取り組みたい方は➡

4 『ロジスティクス源流管理マニュアル (Ver.2) / モーダルシフト推進チェックシート・資料集』

荷主企業のロジスティクス・物流部門、物流企業の担当者が、モーダルシフト推進を検討、計画する際に考慮すべき事項や関係者との調整すべき事項など、検討プロセスに沿ったチェックシート、関連データなどが盛り込まれた資料集としてまとめている。

省資源ロジスティクスを構築するにあたり、他社活動を知りたい方は➡

5 『省資源ロジスティクス事例集』

モーダルシフト、共同物流、包装資材低減の各施策について、食品・流通分野(36事例)、機械器具・精密機器分野(35事例)、素材分野(14事例)の事例を紹介している。

省資源ロジスティクス構築の阻害要因と考えられている取引条件見直しについて知りたい方は➡

6 『取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書』

サプライチェーン全体をとおして、省資源・省エネルギー化の推進を阻害している要因と考えられる取引条件の実態とその影響度を定量的に把握することを目的として、加工食品、家電製品等を取り扱っている企業を対象に、関係企業間におけるCO₂、リードタイム、物流コスト、積載率などに関する物流実態調査を行った。さらに、取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果を定量的に推計し、その評価をまとめている。

リバースロジスティクスに係わる課題や構築へ向けた提言を知りたい方は➡

7 『リバースロジスティクス調査報告書(Ver.2)』

今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描くため、家電・OA機器、自動車、食品、物流(包装・梱包資材)の分野を中心に調査活動を行い、リバースロジスティクスの構築が可能となる環境整備を促進する施策と関係者に対する提言をとりまとめている。

トラック輸配送における二酸化炭素排出量を算定したい方は➡

8 『二酸化炭素排出量算定ガイド(Ver.2)/輸配送/トラック輸送版』

ロジスティクス分野の環境負荷として最も関心が高いトラック輸配送における二酸化炭素排出量を算出するため、環境負荷指標の体系や標準的な算定方法とその事例および現時点において望ましいと思われる按分方法の考え方をまとめている。

自らの活動を環境報告書で報告したい方は➡

9 『企業の環境報告書における物流に関する記載内容実態調査』

製造業を中心とした186社の環境報告書における物流に関する記載をレビューし、その記載内容をどのように改善すれば良いか、2006年4月に施行された「改正省エネ法」への対応を踏まえ、まとめている。

ロジスティクス分野に係わる環境問題に関する基本的な用語、法規、情報等を知りたい方は➡

10 『用語解説』『環境関連法規』『環境関連リンク集』

用語解説…72用語について解説を掲載している。
環境関連法規…環境に関連する法体系図及び29法令について、解説と条文を掲載している。
環境関連リンク…国内及び海外のサイト計217サイトとリンクしている。

※各成果物についてのご意見・ご要望等ございましたら、事務局(本誌巻末ページをご参照ください)までご連絡ください。



第2期ロジスティクス環境会議 第2回本会議報告

第2期ロジスティクス環境会議の第2回本会議が3月15日(木)にホテルニューオータニ(東京・千代田区)で開催されました。当日は、三村明夫議長(JILS会長・新日本製鐵(株) 代表取締役社長)、岡部正彦副議長(JILS副会長・日本通運(株) 代表取締役会長)をはじめとした総勢103名の出席のもと、下記議事についての報告及び承認がなされました。

1 2006年度活動報告及び2007年度活動計画(案)について

2 2006年度収支決算(案)及び2007年度収支予算(案)について

また、オブザーバーの経済産業省、国土交通省、農林水産省から最新施策動向について説明が行われました。ここでは、同会議の内容についてご紹介いたします。

開会挨拶 —— 三村議長挨拶

昨年8月2日の設立総会以降、企画運営委員会を中心に、研究会、委員会による活発な活動を通じて、ロジスティクス分野における環境負荷低減活動を推進してまいりました。メンバーの皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

さて、京都議定書においては、2008年から2012年までの期間において、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量を基準年比6%削減することが、わが国の国際公約となっておりますが、昨年10月に公表された、2005年度速報値では13億6,400万トンと、基準年比で8.1%増加している状況となっており、二酸化炭素排出量の約2割を占める運輸分野としても、削減に向けた取組を加速させていくことが必要だと考えます。

このような状況の中、業種、業界の壁を越えた、多数の企業、学識経験者、行政、団体等の関係者の方々にご参画いただいております。このロジスティクス環境会議において、連携をさらに深めながら、環境負荷低減に向けた検討等をより一層推進していただくことは、たいへん意義深いことだと考えます。

また、第1回本会議の開会に際して、議長として2つのお願いをさせていただきました。1つ目は、第1期で開発されたツールの活用とその実践、2つ目は活動成果を環境会議メンバーのみならず取引先等の関係者と広く共有し、活動の輪を広げることでございます。後ほどご紹介いただきますが、今回新たに作成いただいたツール等も加えながら、さ



らに実践していただければ幸いに存じます。

さて、本日は研究会、委員会の2006年度の活動内容と2007年度の活動計画をご説明いただきますが、ぜひ、その内容を、皆様で共有いただき、次年度のさらなる成果に繋げていただければ幸いです。

最後になりますが、本日、議事終了後、オブザーバーである関係各省から最新施策動向についてご紹介いただくこととなっております。この第2期ロジスティクス環境会議がメンバーの皆様方により、大きな成果を生み出し、その成果が環境にやさしい循環型社会システムに貢献できますことを祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

開会挨拶 —— 岡部副議長挨拶

三村議長のご挨拶にございましたように、京都議定書の約束期間開始となる2008年を間近に控え、改正省エネ法の昨年4月施行による省エネ活動の推進とともに、グリーン物流パートナーシップ会議を通じた荷主企業と物流企業の連携に基づくCO₂排出削減活動が展開されております。

一方、大気汚染対策に関連して、本年2月に、環境省 中央環境審議会より「今後の自動車排出ガス総合対策のあり方について」という意見書が出されましたが、その中でも「輸送事業者と荷主の連携」といった記載があり、荷主企業と物流企業の連携による環境負荷低減活動はますます重要性が高まると考えられます。

このような状況の中、ロジスティクス環境会議は、課題解決に向けた方策の検討、及び実効性のあるマニュアル等のアウトプット創出といった活動を荷主企業と物流企業のパートナーシップに基づき、展開しております。

このパートナーシップとは、単にメンバーが集まれば構築できる、といったものではなく、各メンバー同士が、自社の立場としての意見を率直に述べ合うとともに、相手の立場も考慮した上で、全体最適の視点を踏まえた議論を積極的に進めることにより、はじめて構築できるものではないかと考えます。

第2期ロジスティクス環境会議の最終年度にあたり、研究会、委員会において、今まで以上に活発な議論が行われ、メンバー間のパートナーシップが深まり、その結果として、環境負荷低減活動が一層推進されることを期待しております。

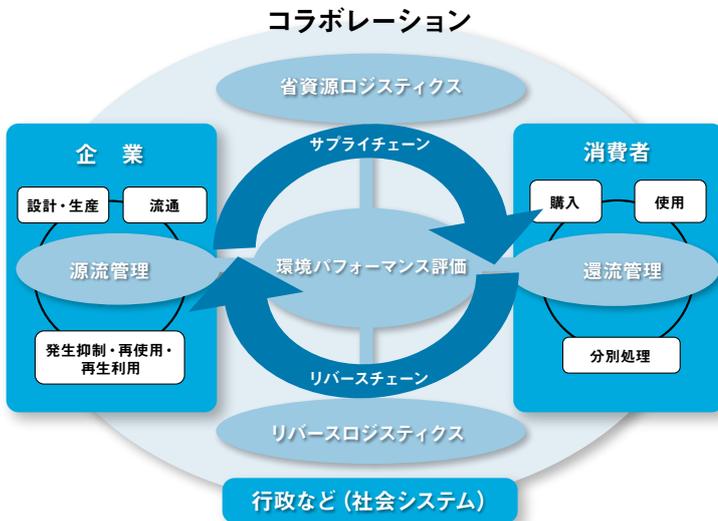
最後になりますが、ご参加いただいた各メンバーの皆様の積極的なお取り組みにより、大きな成果を得られることを期待いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

経過報告（事務局）

第2期ロジスティクス環境会議では、「循環型社会を実現するロジスティクス・ランドデザイン」(図2参照)及び「ロジスティクス環境宣言」(図3参照)の実践に向け、第3回企画運営委員会(2006年9月22日開催)で承認された組織体制

(図4参照)により、活動を進めております。研究会、委員会の具体的な活動内容につきましては、7ページ以降をご参照ください。

図2 循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン



調達、生産、流通、消費の諸活動とそれらの過程を経て発生する廃棄物の処理の行為は、環境汚染や環境破壊など、環境に対して様々な負荷を与えます。私達の世代は健全な地球環境と社会環境とを(人類生存の大前提である)最も重要な財産として、将来の世代に引き継ぐ責務を有しています。その責務を果たすべく、ロジスティクスにおいても、環境への調和、環境との共生、環境改善への積極的貢献を、最優先に考えねばなりません。

ロジスティクスには、再利用や循環などの視点に加え、素材の選択や廃棄物の処理のあり方まで視野を広げ、環境への負荷に適切に配慮しつつ、費用対効果を最適化することが必要です。

JILSは21世紀の循環型経済における、ロジスティクス活動のあるべき姿として「環境と調和した循環型社会を支えるロジスティクス」を提唱します。循環型の経済活動を、ロジスティクスを通じて実現したいという思いを込めて、「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」を提案します。

(第1期 第1回本会議 / 2003年11月13日)

図3 ロジスティクス環境宣言

ロジスティクス環境会議およびそのメンバーは、循環型社会を実現するため、物流分野の環境負荷低減を経営の重要課題として認識し、以下の活動に積極的に取り組むことを宣言する。

1. 自らの環境負荷を低減する

自らの活動によって発生する環境負荷低減の目標を定め、目標達成に向けたマネジメントサイクルを推進する。

2. 環境負荷低減に取り組む企業を増やす

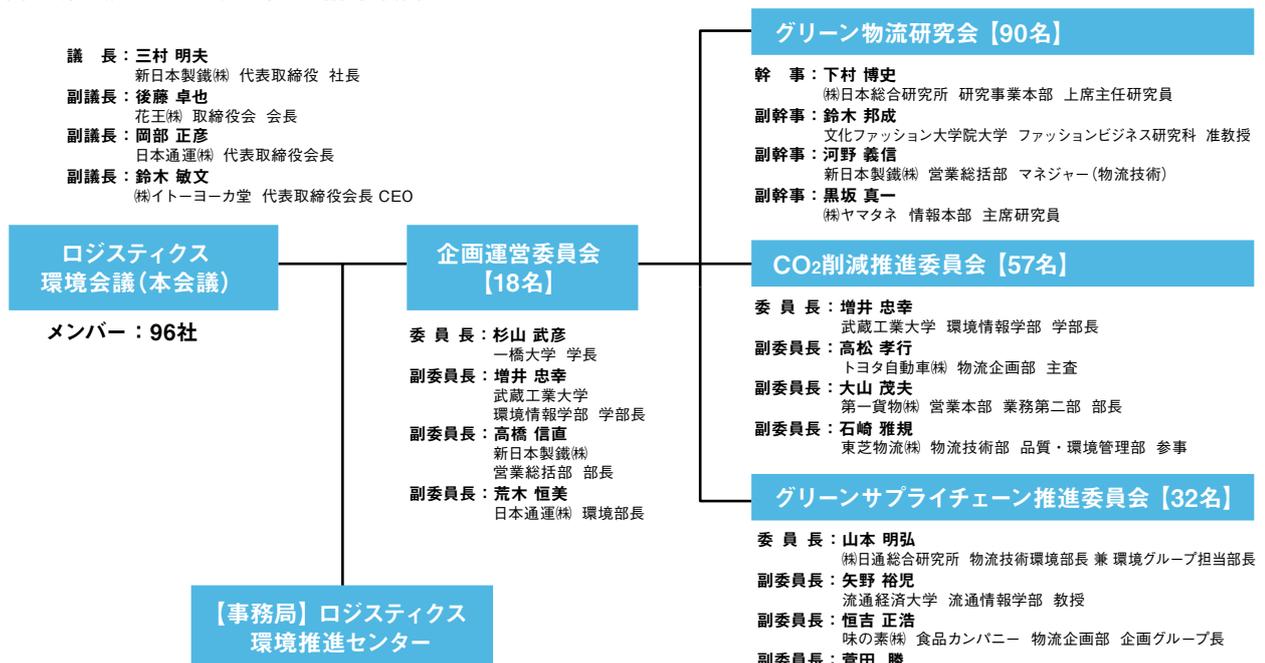
関係企業とパートナーシップを築き、共に環境負荷低減に向けた取り組みを推進する。

3. 情報を発信し、循環型社会の形成に寄与する

活動を通して明らかになった課題については、企業・行政・団体等の関係者へ情報発信を行い、循環型社会の形成に寄与する。

2006年3月15日
社団法人日本ロジスティクスシステム協会
ロジスティクス環境会議

図4 第2期ロジスティクス環境会議 組織図



(敬称略)2007.3.15現在

研究会、各委員会の 2006年度活動内容、 2007年度活動計画

グリーン物流研究会

1. 活動方針

環境負荷を軽減する活動を推進するため、改善施策の事例等の情報収集や現場視察を通じて、実践的な改善施策を研究する。

2. 2006年度活動内容

研究会の活動

以下の活動を実施した。

第1回研究会—2006年9月25日(月)

テーマ：ロジスティクスと環境

内容：経営から現場までの首尾一貫した活動の重要性を認識

第2回研究会—2006年10月26日(木)

テーマ：改正省エネルギー法(荷主対応)

内容：改正省エネルギー法への対応を通じて、省エネ活動によるコスト削減等の経営的な成果が得られることを認識

第3回研究会—2006年11月30日(木)

テーマ：鉄道へのモーダルシフト

内容：荷主と物流事業者が協力し、地道に可能性を探ることが、鉄道輸送化の成功要因であることを認識

第4回研究会—2007年1月25日(木)

テーマ：共同物流

内容：環境負荷低減やコスト削減などのメリットを参加者全員が享受できるスキーム作りの必要性を認識

第5回研究会—2007年3月5日(月)

テーマ：現場見学(株)ブリヂストン 東京工場見学)

内容：トラック輸送で必ず使用されるタイヤによる環境負荷低減の余地を認識

*延べ13人の講師、1企業にご協力いただき、研究会を実施
*第2回及び第3回は、行政(オブザーバー)を招き、パネルディスカッションを実施

その他の活動

アンケートの実施

メンバー登録時、各会合終了時、及び2006年度(第1回～第4回)の全体評価の計7回実施

ブログの開設

<http://plaza.rakuten.co.jp/greenlogistics/>

活動成果

『2006年度 グリーン物流研究会 活動報告書』
第1回から第5回研究会までの発表内容のサマリー及び配布資料を掲載

3. 2007年度活動計画

研究会の実施

(1) 講演会(6回)

(企画テーマ案)

- ・現場改善(物流効率化と環境負荷低減の両立に向けた改善活動)
- ・省エネ法関係(省エネ活動を進めるための省エネ計画)
- ・イノベーション(環境負荷低減に資する技術開発動向の紹介)
- ・グリーン物流パートナーシップ会議 モデル事業採択事業の紹介
- ・NOx、PM法関係
- ・包装資材削減

(2) 見学会(2回)

活動成果

『2007年度 グリーン物流研究会 活動報告書』

CO₂削減推進委員会

1. 活動方針

各企業のCO₂削減を推進するため、改正省エネ法等の関連法制度への対応も踏まえ、荷主企業と物流企業とのパートナーシップによる継続的な改善活動を推進するうえでの問題点、課題を整理し、解決策を検討する。さらに必要に応じて、行政、団体等の関係者へ提言を行う。

2. 2006年度活動内容

改正省エネ法への対応

- (1) 改正省エネ法におけるエネルギー使用量算定等に関する取組み状況及び問題、課題の収集
- (2) 荷主及び輸送事業者にとって、CO₂排出量削減のための施策立案等の参考となる情報収集
→ 委員会メンバーを対象にアンケート調査を実施し、荷主・子会社21社から52事例、物流事業者8社から20事例を収集

活動成果

『改正省エネ法対応ヒント集(Ver.1)』

(主な内容)

- (1) 改正省エネ法の概要

- 省エネ法における運輸分野に係る措置の概要
- 荷主判断基準
- 輸送事業者判断基準
- 2007年4月以降のスケジュール
- ➔ 改正省エネ法に係る基本的事項を紹介
- (2) 荷主のエネルギー使用量の算定について
 - 算定式の解説
 - 必要となるデータ及び係数
 - 算定例
 - データ把握方法
 - 算定式による差
 - 按分
 - エネルギー使用量と密接な関係を持つ値
- ➔ 特定荷主に係るエネルギー使用量算定に関する事項の整理
- (3) 輸送に係るエネルギー使用量削減のための留意ポイント
 - 算定方法と削減施策の関係
 - 算定範囲と削減施策の関係
 - 削減に関する考え方と現場指標
- (4) 付録
 - アンケート調査の概要等
 - 事例集(荷主・子会社/物流事業者)
- ➔ すべての事例について、原則として調査票に記入されたとおり掲載することで、より詳細を知りたいと考える読者の要望に応える。

3. 2007年度活動計画

活動内容

- (1) 改正省エネ法 告示等に関する提言
定期報告書、計画書作成及び提出等もふまえ、問題、課題を収集、整理し、行政へ提言を行う。
- (2) パートナーシップによる改善活動の推進
削減のための留意ポイントの因果関係の整理
- (3) その他

活動成果

『荷主と物流事業者の連携による改善活動推進ガイド』(仮称)

グリーンサプライチェーン推進委員会

活動方針

製品の企画、設計等の源流段階から調達、生産、販売、回収等の物流プロセスの環境負荷を低減するため、荷主企業と物流企業間で問題、課題を共有し、解決の方策を検討する。さらに必要に応じて、行政、団体等の関係者へ提言を行う。

- ➔ 具体的には、下記2つの分科会を設置し検討を進める。
 - 取引条件分科会
 - 源流管理分科会

取引条件分科会

1. 2006年度活動内容

既存調査のレビュー

- (1) 「取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書」
(第1期省資源ロジスティクス調査委員会 アウトプット)
- ➔ 見直しに優先的に取り組むべき取引条件として、「多頻度小口配送」、「時間指定納品」、「リードタイム」をあげる。
- (2) 「商慣行の改善と物流効率化に関する基礎調査報告書」(国土交通省 国土技術政策総合研究所の委託によりJILSが実施)

➔ マクロベースで取引条件改善効果を推計した結果、物流効率化の効果としては「多頻度小口配送」が最も大きい。

➔ 上記等を踏まえ、当分科会として「多頻度小口配送」に焦点をあてて検討を進める。

多頻度小口配送に対する各主体の捉え方の整理

分科会メンバーを対象にアンケート調査を実施し、各主体の捉え方を整理(分科会メンバーが属していない部分については、第1期ヒアリング結果より抜粋)

アウトプットの方向性検討

多頻度小口配送削減の一方策と考えられる、共同配送推進のためのガイドの作成を行う。(その際に、加工食品をモデルとするが、応用性のあるものを目指す。)

共同化推進プロセスの整理

既存の共同化推進マニュアルをレビューし、共同化推進プロセスとともに、共同化の成功要因等を整理

2. 2007年度活動計画

活動内容

- (1) ヒアリング調査等により、実態把握及び課題抽出
- (2) (上記を踏まえ) 実効性及び汎用性が伴う共同化推進プロセスの整理(従来の評価項目に加え、環境の評価項目を加えた形の整理)
- (3) 行政等への提言

活動成果

『多頻度小口配送削減による環境にやさしい共同配送推進ガイド』(仮称)



源流管理分科会

1. 2006年度活動内容

第1期源流管理による環境改善委員会

アウトプットのレビュー

- (1)「ロジスティクス源流管理マニュアル(Ver.1)」
 - ➔ 荷主企業のロジスティクス、物流部門、並びに物流企業が自ら環境負荷の発生源としての認識を持ち、物流諸活動における環境負荷を最小限にとどめるための管理ポイントをマニュアル形式で整理
- (2)「ロジスティクス源流管理マニュアル(Ver.2)
 - ～モーダルシフト推進チェックシート・資料集～」
 - ➔ モーダルシフトを検討、計画する際に考慮すべき事項等、検討プロセスに沿ったチェックシート、関連データを盛り込んだ資料集として整理

源流管理の範囲等の確認

- (1) 環境会議として捉えてきた「源流管理」の定義の確認
 - ① 物流部門そのものが環境負荷発生源であるという認識のもと、管理を行うこと
 - ② 物流、ロジスティクス分野の環境負荷低減のため、上流部門、関連部門等から管理を行うこと(➔物流、ロジスティクス部門(物流事業者)が上流部門、関連部門等へ積極的に要請、提案すること)
- (2) 分科会メンバーに、源流管理の視点から管理等が必要になる項目についてアンケート調査実施

アウトプットの方向性の検討

- 当分科会として作成するアウトプットの方向性を議論
- ➔ グリーンロジスティクスを推進するための項目が記載されたチェックリストを作成

チェックリストのねらいの確認

本分科会では、ロジスティクス分野における環境負荷を低減し、循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン実現の一助となるためのチェックリストを作成する。なお、本チェックリストの具体的なねらいは以下のとおりとする。

- (1) 自社のグリーンロジスティクスに係る取組のレベル(到達度合い)を図るツール
 - ➔ 企業において、毎年1回チェックを行い、①前年度との比較、②他社(全体)結果との比較により、自社のグリーンロジスティクスに係る取組レベル(位置づけ)をある程度客観的に図れるツールとする。
- (2) グリーンロジスティクスの活動内容及び領域を示すツール
 - ➔ グリーンロジスティクスについての具体的な活動内容及び活動領域について、多くの企業に理解を深めていただくツールとする。

- (3) ロジスティクス環境宣言の実現に向けたツール
 - ➔ ロジスティクス環境宣言にある「環境負荷低減に取り組む企業を増やす」ため、企業規模、業種問わず、多くの企業において、上記(1)及び(2)として有効なツールとする。

チェック項目の検討

LEMSチェックリスト*を叩き台として、チェック項目の検討に取り掛かる。

2. 2007年度活動計画

活動内容

- (1) チェック項目の検討
- (2) 評価基準の検討
- (3) チェック項目に関係する参考情報の掲載

活動成果

『グリーンロジスティクス推進チェックリスト』(仮称)

*LEMSチェックリスト

ロジスティクス分野における環境負荷低減活動に取り組む企業を増やすことを目的に、企業が当該活動を進めるためのガイドラインとして、2001年にJILSが経済産業省の委託調査事業の一環として作成。2003年度に改訂がなされ、現在111項目のチェック項目がある。



情報提供活動について

1. 2006年度活動内容

「CGLニュース」と「CGLジャーナル」による情報発信研究会、委員会の活動経過、各種催事、行政動向等について以下のような情報発信を行った。

- (1) CGLニュース(電子メール)
 - 速報的内容として、10回発信
- (2) CGLジャーナル(冊子)
 - 各委員会の活動状況等を集約し、半年に1回発行。2006年度は1号発行(本誌)

イベントの実施(シンポジウム、フォーラム等)

環境会議全メンバーを対象に、委員会の活動成果等に関する情報発信、もしくはは研究会、委員会では

とりあげていないテーマに関する情報提供等を目的に実施

(1) ロジスティクス環境シンポジウムの開催(2007年2月19日(月)、98名参加)

*詳細はP11を参照

2. 2007年度活動計画

「CGLニュース」と「CGLジャーナル」による情報発信

本会議をはじめ、研究会、委員会の活動経過、各種催事、行政動向等について、引き続き以下の媒体を用いて情報発信を行う。

(1) CGLニュース(電子メール)

速報的内容として、24回発信予定

(2) CGLジャーナル(冊子)

各委員会の活動状況等を集約し、2号発行予定

イベントの実施(シンポジウム、フォーラム等)

環境会議全メンバーを対象に、委員会の活動成果等に関する情報発信、もしくは研究会、委員会ではとりあげていないテーマに関する情報提供等を目的に実施

・上期(2007年8月から9月) 1回予定

・下期(2008年1月から2月) 1回予定



Feature 3

グリーン物流研究会

第5回研究会 開催報告

—— (株)ブリヂストン 東京工場見学会

グリーン物流研究会の第5回研究会において、(株)ブリヂストン 東京工場の見学会を行い、32名の方が参加されました。

当日は、工場等の概況説明が行われた後、製造工程、及び工場に併設されているブリヂストン TODAY館(タイヤとゴムの博物館)の見学を行いました。製造工程の見学では、乗用車用タイヤの工程について、ゴム練り工程から検査工程まで一通り説明を受けながら、見学することができました。

また、見学終了後には、ブリヂストン担当者の方より「タイヤメーカーとしての環境負荷低減の取組み」、「タイヤによる燃費向上への貢献」についてのプレゼンが行われました。特に、「タイヤによる燃費向上への貢献」では、従来タイヤとエコタイヤの比較に加えて、空気圧と燃費の関係についても説明いただき、日常点検の重要性についても認識することができました。

参加者の方からは「タイヤの製造現場を初めて見たが、このように製造されていることを知って大変面白かった。また、タイヤメーカーとしての環境への取組について燃費の向上等違う視点か

ら取組んでいる事、安全性の厳守を果たしながらの研究開発は環境対応と共に他社との差別化戦略として取組んでいる事に感銘を受けた。」等の感想をいただいております。

なお、当日のプレゼンの概要につきましては、「2006年度 グリーン物流研究会 活動報告書」及び「グリーン物流研究会 ブログ」に掲載されておりますので、興味のある方はご参照ください。



Feature 4 ロジスティクス環境シンポジウム 開催報告

改正省エネ法の施行などを受け、荷主・物流事業者の環境負荷削減への機運が高まっておりますが、物流は、小口販売の増加などの物流以外の要因によって増大するケースが多く、商取引のあり方も含めて改善することが必要となっております。

我が国の取引慣行では、小口・多頻度といった物流サービスレベルが価格に反映されていないケースが多く、そのため、買い手には物流効率化のインセンティブが働かず、輸配送の過度な小口化、多頻度化といった様々な問題を生じていると考えられ、この状況を改善するためには、取引条件を改善し、物流サービスレベルの「見える化」を実現することが必要であります。

このような問題意識のもと、製造業・流通業・物流企業間の取引条件を見直すことによるCO₂等の環境負荷の低減、また、輸送コストや道路交通に与える影響に係わる認識を関係者で共有することを目的として、「ロジスティクス環境シンポジウム～取引条件見直しによる環境負荷とコストの改善～」を2月19日(月)に開催し、環境会議メンバーを中心に98名が参加いたしました。



講演1

「取引条件の見直しによる環境負荷とコストの改善」

林 克彦 氏 (流通科学大学 商学部 教授)

講演2

「中間流通業の立場からみた取引条件の現状と今後の方向性」

永井 幸雄 氏 (中央物産 (株) 代表取締役専務)

パネルディスカッション

「環境負荷とコスト改善に向けた取引条件のあるべき姿」

●コーディネータ

根本 敏則 氏 (一橋大学 大学院 商学研究科 教授)

●パネリスト (五十音順)

- ・恒吉 正浩 氏 (味の素 (株) 食品カンパニー 物流企画部 企画グループ長)
- ・戸成 司朗 氏 (株)西友 執行役シニア・バイス・プレジデント『流通推進本部』担当)
- ・永井 幸雄 氏 (中央物産 (株) 代表取締役専務)
- ・根本 重之 氏 (拓殖大学 商学部 教授 / 財)流通経済研究所 理事)
- ・浜辺 哲也 氏 (経済産業省 商務情報政策局 流通政策課長)

CGLジャーナルII 第1号 2007年5月14日発行

発行人 徳田 雅人
 編集人 佐藤 修司
 発行所 社団法人 日本ロジスティクスシステム協会
 ロジスティクス環境推進センター
 〒105-0014 東京都港区芝2-28-8 芝二丁目ビル3階
 Tel. 03-5484-4021 Fax. 03-5484-4031
 e-mail cgl@logistics.or.jp
 URL <http://www.logistics.or.jp/green/>
 印刷 株式会社エデュプレス